

令和7年第1回
組合議会定例会議事録

招集日 令和7年2月19日

招集場所 クリーンプラザふじみ大会議室

ふじみ衛生組合議会

令和7年第1回 組合議会定例会議事録

招集日 令和7年2月19日（水）

招集場所 クリーンプラザふじみ大会議室

1 出席議員（10人）

1番 大野 祐 司

2番 澤 井 慧

3番 松野 英 夫

4番 丸 田 絵 美

5番 宮 本 和 実

6番 大 倉 あき子

7番 谷 口 敏 也

8番 野 村 羊 子

9番 土 屋 けんいち

10番 大 城 美 幸

2 欠席議員（0人）

3 出席説明員

管 理 者	河 村 孝	副 管 理 者	長 友 貴 樹
参 与	馬 男 木 賢 一	参 与	今 井 隆 司
事 務 局 長	荻 原 正 樹	事 務 局 次 長	上 野 洋 樹
総 務 課 長	鷹 林 勝	施 設 課 長	澤 田 忍
施 設 課 長 補 佐	山 賀 則 夫	総 務 主 幹	垣 花 満
総 務 主 幹	田 波 利 明	清 掃 主 幹	仲 雅 広
清 掃 主 幹	三 ツ 木 吉 和	人 事 主 幹	田 中 博 文
文 書 主 幹	富 永 幹 雄	財 務 主 幹	伊 藤 恵 三
契 約 主 幹	立 花 省 二	会 計 管 理 者	荒 川 浩 一
監 査 事 務 局 長	古 園 純 一	出 納 主 幹	

午前9時57分開会

○議長（大野祐司君） おはようございます。定刻前ですけれども、おそろいになりましたので、これより令和7年第1回ふじみ衛生組合議会定例会を開会いたします。

直ちに本日の会議を開きます。

日程第1 会期の決定

○議長（大野祐司君） 日程第1、会期の決定を議題といたします。

お諮りいたします。会期は本日1日といたします。これにご異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

○議長（大野祐司君） ご異議なしと認めます。よって、会期は本日1日とすることに決定いたしました。

日程第2 会議録署名議員の指名

○議長（大野祐司君） 続きまして、日程第2、会議録署名議員の指名を行います。

会議録署名議員は、会議規則第36条の規定により、2番澤井慧議員及び7番谷口敏也議員を指名いたします。

日程第3 管理者報告

○議長（大野祐司君） 日程第3、管理者報告に入ります。

それでは、河村管理者、お願いいたします。

河村管理者。

○管理者（河村孝君） 皆さん、おはようございます。本日は両市の定例議会を控えまして、何かとご多用のところでございますが、議員の皆様におかれましては、先月の行政視察につきまして、令和7年第1回ふじみ衛生組合議会定例会にお願い申し上げましたところ、本当に恐縮に存じます。

それでは、早速報告に入らせていただきます。

本日、報告申し上げる事項は4件でございます。

ご報告の第1件目は、ごみ処理実績についてでございます。

なお、重量につきましては、小数点以下を四捨五入してご報告させていただきますので、ご了承をお願いいたします。

初めに、昨年12月には、クリーンプラザふじみごみピットがいっぱいになってしまいまして、皆様には大変ご心配をおかけいたしました。武蔵野市、立川市及び柳泉園組合にごみ処理のご支援をいただくとともに、プラスチックを保管し、一部を外部で処理することによりまして、ごみの収集に支障を来すことはございませんでした。

この間の皆様のご理解に改めてお礼を申し上げます。

それでは、資料1をご覧ください。

クリーンプラザふじみの令和6年10月から12月までの処理実績でございます。

この3か月間の総搬入量は1万9,531トンでございまして、前年度と比較いたしますと、933トン、5.0%の増となっております。

その内容といたしましては、三鷹市が7,281トンで構成比44.9%、前年度比31トン、0.4%の増、調布市が8,950トンで構成比55.1%、前年度比232トン、2.5%の減となっております。

また、リサイクルセンターにおける処理後の可燃性残渣の搬入につきましては、2,932トンで、前年度比1,137トン、63.3%の増となっております。

そのほか、広域支援に伴いまして、小平市の可燃ごみを367トン受け入れました。

続きまして、資料4をご覧ください。

リサイクルセンターの令和6年10月から12月までの処理実績でございます。

この3か月間の総搬入量は4,109トンでございまして、前年度と比較いたしますと、190トン、4.4%の減となっております。

その内訳といたしましては、三鷹市が2,007トンで構成比48.8%、前年度比94トン、4.5%の減、調布市が2,102トンで構成比51.2%、前年度比96トン、4.4%の減となっております。

ご報告の第2件目は、視察・見学の状況についてでございます。

資料7をご覧ください。

クリーンプラザふじみの令和6年4月から12月までの視察・見学者数でございます。

この9か月間の来場者数は57団体、9,247人で、前年度に比べまして325人の増となりました。これは学校の社会科見学や個人見学が増えたことによるものでございます。

また、5)のとおり、12月7日に煙突登り見学会を開催し、19人の方にご参加いただきました。

今後も両市の児童生徒及び市民の皆様に向けた環境学習・啓発活動に取り組んでまいり

ます。

ご報告の第3件目は、地元協議会についてでございます。

地元協議会につきましては、昨年11月22日に第83回の地元協議会を開催いたしました。

ごみ処理実績や環境測定結果を報告するとともに、能登半島地震により生じた災害廃棄物の受入れについて協議を行いまして、ご了承いただきました。なお、次回の会議は2月28日に開催を予定しております。

ご報告の第4件目は、リサイクルセンターの更新についてでございます。

資料8をご用意ください。

(仮称)新リサイクルセンターの整備及び維持管理を行う事業者の選定につきまして、昨年の11月27日に再度入札公告を行いましたところ、12月13日の入札書類提出期限までに1者から入札書類の提出がございました。

その後、技術提案を審査する非価格要素審査並びに価格審査を行いまして、非価格要素審査点と価格審査点を合計し、総合評価点を算出いたしました。

18ページをご覧ください。

代表企業をJFEエンジニアリング株式会社とするサルスベリグループが、総合評価52.83点を獲得いたしまして、落札候補者に選定されました。

今後、建設工事請負契約と維持管理業務委託契約を締結いたしますが、建設工事請負契約につきましては、議会の議決に付すべき契約となります。

後ほど議案として提出させていただきますので、ご審議のほどよろしくお願い申し上げます。

私からのご報告は以上でございます。

なお、ごみ処理実績及びリサイクルセンター更新につきましては、事務局長より補足説明させていただきますので、よろしくお願いいたします。

○議長（大野祐司君） 荻原事務局長。

○事務局長（荻原正樹君） おはようございます。私からは管理者報告のうち、ごみ処理実績及びリサイクルセンターの更新について補足をさせていただきます。

第1件目は、ごみ処理実績についてでございます。

管理者からの報告と同様、重量につきましては、小数点以下を四捨五入してご報告させていただきます。

資料1をご覧ください。クリーンプラザふじみの令和6年10月から12月までの3か月間

の状況でございます。

搬入実績につきましては、前年度と比較いたしまして、総量で5.0%の増となりました。

三鷹市、調布市の搬入量につきましては、相互支援及び広域支援分を含んでいますが、ほぼ横ばいとなっております。

なお、調布市の委託収集、いわゆる家庭系ごみが減少しているのは、令和5年度は年末に市内全域で一斉収集をしたことによるものと考えております。

また、リサイクルセンターの可燃性残渣が1,137トン、63.3%の大幅な増となっておりますが、これは8月からプラスチック、10月から一部のペットボトルを焼却、熱回収処理に変更したことによるものでございます。

昨年の12月にごみピットがいっぱいになってしまった理由でございますが、12年に1回のボイラの蒸気加熱器更新工事に伴いまして、焼却量が2,815トン減少した一方で、ごみの搬入量が933トン増加したことによるものでございます。

なお、今回の蒸気加熱器更新工事は12年後であり、新しいリサイクルセンターが稼働している予定ですので、同様の事象は発生しないと考えております。

次に、資料2でございます。令和7年度負担金の計算の基礎となるクリーンプラザふじみの令和6年1月から12月までの1年間の状況でございますので、ご覧いただければと存じます。

続きまして、資料3をご覧ください。相互支援及び広域支援の状況でございます。合計で1,138トンの支援をお願いいたしました。

武蔵野市との相互支援につきましては、令和7年度分の600トンのうち、479トンを前倒しで実施いたしました。令和7年度に武蔵野市から同じ量のごみの搬入がありますので、費用は発生いたしません。

立川市及び柳泉園組合との広域支援につきましては、処理経費は、1キログラム当たり38円、運搬経費は、距離によって若干の違いはありますが、平均で1台当たり約2万4,000円でございます。

現在の状況でございますが、ごみピットレベルは12月のピーク時に比べ、9メートル程度下がっており、このまま順調にごみ処理が進めば、4月中には例年どおりのピットレベルまで下がる見込みでございます。また、保管したプラスチックでございますが、駐車場を中心にピーク時には1,000ベール程度保管をしておりましたが、昨日の段階で残り63ベールとなり、来週の月曜日には全ての処理が終了する見込みでございます。

続きまして、資料4をご覧ください。リサイクルセンターの令和6年10月から12月までの3か月間の状況でございます。

搬入実績につきましては、前年度と比較いたしまして、総量で4.4%の減となりました。

搬入日数が昨年度より1日少なかったこともあり、搬入量につきましては、三鷹市、調布市とも微減となっています。

なお、調布市のペットボトルが23トン、9.4%の増となっていますが、これは年末に市内全域で特別収集を実施したことによるものと考えております。

次に、搬出実績でございます。搬出実績につきましては、まず、左側の有償・無償の資源物から申し上げます。

総量は前年度と比べ、1,234トン、53.7%の大幅な減となっています。この主な要因は、8月からプラスチックの処理が焼却・熱回収処理に変更となり、14番の容リ・プラスチックが982トンの減となったこと、及び10月から一部のペットボトルの処理が焼却・熱回収処理に変更となり、15番の容リ・ペットボトルが373トンの減となったことなどによるものでございます。

続きまして、右側の逆有償の資源物等搬出の欄をご覧ください。前期同様、水銀を含む有害廃棄物、廃消火器などの処理困難物につきましては、逆有償での処分となっています。

また、保管したプラスチックのうち9トンを民間事業者へ搬出し、ごみ固形燃料としてリサイクルいたしました。

なお、プラスチック類を含む可燃性残渣2,932トンにつきましては、クリーンプラザふじみにおいて全て焼却処理し、熱回収いたしました。

次に、資料5でございます。令和7年度負担金の計算の基礎となるリサイクルセンターの令和6年1月から12月までの1年間の状況でございますので、ご覧いただければと存じます。

続きまして、資料6をご覧ください。有価物品等の価格の推移でございます。

令和6年第4回定例会後の状況につきまして、ご説明申し上げます。

1月1日以降の資源物売却に係る単価の競争入札を昨年12月13日に実施いたしました。その結果、鉄類につきましては、3番の特A鉄及び4番のA鉄が1,680円、4.1%の上昇、5番のB鉄が4,730円、12.9%の下落となりました。

また、アルミ類につきましては、6番の特アルミが5万6,130円、20.2%の上昇、7番のアルミは1万1,020円、5.2%の上昇となりました。

なお、2番のペットボトルにつきましては、丸ボトルのまま1キログラム当たり1.1円で売却ができております。

リサイクルセンター中央棟の解体工事に伴いまして、大型車両で搬出できなくなることから、今後は下落基調に向かうことも考えられます。今後とも市況を見ながら、適切かつ有利な価格で売却できるよう努めてまいります。

第2件目は、リサイクルセンターの更新についてでございます。

資料8をご用意ください。事業者選定の結果でございます。

3ページをご覧ください。落札者決定までの経緯でございます。

令和6年2月27日に入札公告を行いました。3月29日までに民間事業者2者から参加申請書類が提出されましたが、8月26日までに入札書類の提出がなかったことから、入札は不調となりました。

そこで、11月27日に再度入札公告を行いましたところ、12月13日までに1者から入札書類の提出がありました。

その後、令和7年1月19日に技術提案の評価を行い、1月20日に価格審査及び総合評価を行いました。

その結果を踏まえ、1月23日に開催された第9回事業者選定審議会において、管理者に対しまして、審議会会長が事業者選定結果を答申いたしました。

次に、事業者選定の結果でございます。

12、13ページをご覧ください。技術提案の評価である非価格要素審査結果でございます。

採点は加点方式でございまして、要求水準を上回る提案があった場合、加点を行うものでございます。結果は13ページ下段のとおり、33.43点の高得点となりました。

続きまして、価格審査の結果でございます。

18ページをご覧ください。入札価格は288億2,000万円で、得点は19.40点で、昨今の物価高騰の影響を反映した得点となりました。

なお、非価格要素審査点と価格審査点を合わせた総合評価点は52.83点となりました。

今後の予定でございますが、今月中に建設請負契約を締結し、3月中に維持管理業務委託契約を締結する予定でございます。

私からの報告は以上でございます。

○議長（大野祐司君） 管理者からの報告は以上でございます。

ただいまの管理者報告につきまして、質疑のある方は挙手をお願いいたします。

野村議員。

○8番（野村羊子君） それでは、幾つか質問させていただきます。

まず、一つはやはりごみピットがあふれたという件ですけれども、一つは広域で本当に支援いただいて、やりくりができたということですが、一方で、ふじみのほうでも広域で引き受けていたことがあって、その辺のやりくりというのは、やっぱりそこはちょっと待っていただいていたみたいなやりくりというのはできなかったのか。これ、もう一つはボイラの交換というのはもう前もって分かっていたことで、その辺りの見通し、こういう事態にならないような見通しの立て方、結構、慌ててやらざるを得ないみたいなことだったと思うんですが、その辺りの見通しがどうだったのかというふうなことをちょっと確認したいと思います。お願いします。

○議長（大野祐司君） 荻原事務局長。

○事務局長（荻原正樹君） まず、広域支援の関係でございますが、小平市からのごみを確かに受け入れておりますが、12月は、小平市のごみの搬入はたまたまですけれども、なかったということで調整は行っておりません。

また、更新工事とのタイミングのお話もございましたが、12年に1回やらなければならないという更新工事がある中で、たまたま今回はリサイクルセンターの建て替えのタイミングに当たってしまったということでございまして、これについては、リサイクルセンターの建て替えそのもののスケジュールをずらさない限りは、なかなか解決できないという部分がございます。

したがって、今回は、できるだけ外部に出さないように、自分のところで処理をしようという方針の下に、プラスチックの全量とペットボトルの一部は焼却しようというような計画で進めてきたわけでございます。

ごみの重量的には十分カバーできる重量だったのですが、実際にはペットボトルもプラスチックも非常にかさばり、ごみピットのほうが急激にいっぱいになってしまったということで、今回、緊急に支援をお願いしたというような状況でございます。

○議長（大野祐司君） 野村議員。

○8番（野村羊子君） だから、当初の予定としては、それこそ駐車場にベール積んでというふうなことで対応できるというふうに、それもたしか急遽やりくりをしたと思います。だから、かさばるものはかさばると分かっているわけで、その辺りの予測がやっぱり不十分だったのか、もうその収集されてくる量がやっぱり思ったより多かったというふう

なことなのか、12年に一度って逆に言えば分かり切っているわけで、リサイクルセンターのあれも数年前からやりくりしてきているわけで、時期が重なるというところのやりくりの辺りというのは、もちろん広域支援は逆に言えば、もうあふれるから広域支援をお願いしますって事前をお願いしますとか、そういうような先の見通しをとった対応ではなくて、何かすごく慌てて頑張って対処できたのはよかったんですけども、その辺りの対応、予測をして、こうなるだろうというシミュレーションが甘かったんじゃないかというふうにならざるを得ないのかなと今の状況ではと思うんですが、その辺りどうでしょうか。

○議長（大野祐司君） 荻原事務局長。

○事務局長（荻原正樹君） まず量が多かったのか、想定以上にかさばったのかという視点で申し上げますと、想定以上にかさばったということで、量的には想定どおりでございましたが、これほどかさばるとは思わなかったというのが正直、反省しているところでございます。

また、広域支援の前倒しというお話でございますが、やはり広域支援をお願いするに当たっては、確実に広域支援をお願いしなければならないという状況が必要でございます。基本的にお願いですれば、受けるほうは理事者への説明、それから議会への説明、地元への説明等々の手続が必要になりますので、お願いするに当たっては、お願いするという状況がある程度確定した段階でお願いしないと、先方にもご迷惑をかけてしまうということになりますので、今回については、かなり直前の段階で判断をしたということになります。

○議長（大野祐司君） 野村議員。

○8番（野村羊子君） やりくりの仕方は分かりました、そうですね、東日本のときに引き受けるかどうかと地元の方にやって、大した量は残らなかったと思います。だから、そういうふうなある種、空振りみたいなところもあってもいいのではないかというか、というふうなこともあるので、今回能登のほうの話も東京都から来ていると思いますけども、その辺りのやりくり、もちろんやりくりし合える、だから、三鷹も言われれば、ふじみも言われればやりくりをするという姿勢でいるのは、それはそれでいいと思うんですけども、これほど大きな焼却量が減るというようなことは今後、これからあと数年、リサイクルセンター建設で動き出すまでかかるとは思うんですが、そういうメンテナンスはないと考えていいですか。

○議長（大野祐司君） 荻原事務局長。

○事務局長（荻原正樹君） 今回の更新工事は、1炉当たり約1か月、焼却炉を止めて

行う大きな工事でございます。このような工事は、今後リサイクルセンターの工事期間中にはございませんので、同様の事象が発生することはないと考えているところでございます。

○議長（大野祐司君） 野村議員。

○8番（野村羊子君） そういうことを願っています。有償、逆有償の話で、市況が少し上がってきている、でもないのか、鉄はちょっと下がっている。全体の中でまあまあの金額で売れている、予算的にはこれで、決算的には、2024年度のずっときた中でこれでそれほどぶれがなく賄えているというふうに、変な言い方ですけど、この金額で売れていることが大丈夫なのかというふうなことと、先日、やはり民間事業者が路上から収集しているのを、市の委託業者じゃないものが集めているじゃないか、これはと思えるような事態があって、最近、だからやはり金額上がってくるとそういうことがまた横行するんじゃないかという心配をちょっと今しているんですが、今の収集状況では、ふじみからしてはそういうことはあまり見られないというふうに思っていますか。

○議長（大野祐司君） 荻原事務局長。

○事務局長（荻原正樹君） まず、有価物の売却収入と、決算の見込みとの比較でございますが、現在の価格で推移をすれば、決算については、想定以上の収入が得られるというふうに思っているところでございます。

また、業者さん以外の方が取っていくという事例ですけれども、確かに銅線などについて、盗難事件があるというのは、全国でも発生しているようでございますが、三鷹市、調布市内で、そのような事例が発生したというようなことは聞いておりません。

○議長（大野祐司君） 野村議員。

○8番（野村羊子君） 分かりました。ちょっと注視を、それは各市のそれぞれの市のごみ対策課のほうで注視をしていただければと思います。新リサイクルセンターの入札の件、議案にもなっているのでどこまで聞いていいかちょっと悩むところですが、1者応札があったというのはそれはそれでよかったなと思うんですが、このサルスベリグループというのは、10ページに書いてあるように、JFEと福田組と林建設と、この3者で構成しているグループというふうに捉えてよろしいでしょうかというのが1点、それと、こちらのグループで、このリサイクルセンターというものの実績があるのかないのか、どの程度あるのかということを確認したいと思います。

○議長（大野祐司君） 荻原事務局長。

○事務局長（荻原正樹君） グループの構成につきましては、ご質問のとおり、この3者の構成ということになります。なお、リサイクルセンターの実績ということでございますが、JFEエンジニアリングにつきましては、こちらの焼却場をやった実績もありますし、林建設についても焼却場の関係で、こちらのお手伝いをさせていただいたという実績がございます。

また、福田組につきまして上場企業でございますので、全国で手広くやっております。したがって、焼却リサイクルに限らず、この3者についてはかなりの実績がございます。

○議長（大野祐司君） 野村議員。

○8番（野村羊子君） 分かりました。金額的なことは議案になるのかな。実際に実績があるというふうなことを含めて、特にふじみで直接お付き合いがあってやってきているということがあって、今回応札いただいたのかなと思いますが、その辺りを含め、今後の実際の運営そのものはこのグループの中で、つまりこの各社から派遣された人がやるとか、そういうふうなことで職員体制というのはどういうふうになるかというのはちょっと確認しているでしょうか、していないでしょうか。

○議長（大野祐司君） 荻原事務局長。

○事務局長（荻原正樹君） 運営につきましては、特別目的会社をつくっていただいて、リサイクルセンターの運營業務に特化して仕事をしていただくという予定でございます。その会社につきましては、今後、設立をしていただくのか、またはたまたまJFEさんが今回とりましたので、JFEさんは、焼却施設の特別目的会社を持っていますから、そちらの会社の定款を変更して、リサイクルも併せて業務を行っていくというような2つのやり方があると思います。また、方向性が出ましたらご報告させていただきたいと思います。

○議長（大野祐司君） ほかに質疑ございませんか。

谷口議員。

○7番（谷口敏也君） ちょっと1点確認したいんですけど、先ほどごみ処理実績の報告で、局長のほうからの説明で2か所、1か所は着手ですけど、ペットボトルの今年、本年度、調布のほうで特別収集をしちゃうと。もう1個はどこかちょっと忘れちゃった、多分、委託収集のところじゃないけど、去年が多かった、昨年度が多かったというお話だったんですけど、私の認識だと三鷹ってもう1年分のカレンダーが出て、収集日というのは決まっているんですけど、調布市さんはそうじゃなくて、何かがあった場合には要望に応

じて特別収集しているのかどうかちょっと確認したいですけど。

○議長（大野祐司君） 荻原事務局長。

○事務局長（荻原正樹君） 調布も三鷹も同じだと思うんですが、カレンダーのめぐりによって28日で業務を終えてしまうと、次のお正月明けまでの期間が非常に長くなる年があります。

このようなときについては、例えばふだんは収集しない土曜日に、特別に収集をすとか、あとは品目によって、月末31日までやるというような手だてをして、市民が困らないような収集方法をしています。ですので、三鷹も調布も多かれ少なかれそういった工夫をしていると思います。

今回、三鷹市で初めてだったのは、今まで瓶、缶とペットボトルは1、3週目、2、4週目で収集して、1月の1週目がない場合には飛ばして、2週目からスタートしていたんですけれども、今回初めてふだん1、3週目で収集しているものを2、4週目にしたというような事例もありますから、やはり三鷹市のほうもそれなりに工夫をしていると思います。

○議長（大野祐司君） 谷口議員。

○7番（谷口敏也君） それは年間のカレンダー自体にはもう入っているということですか。

○議長（大野祐司君） 荻原事務局長。

○事務局長（荻原正樹君） 毎年、秋ぐらいになりますと、翌年のリサイクルカレンダーの製作に入ります。そのときには、三鷹市、調布市、ふじみ衛生組合3者でどのような日程で集めて、どのような日程でふじみ衛生組合で処理をしようかというのを事前に協議をいたしまして、リサイクルカレンダーをつくっていますので、リサイクルカレンダーには全て反映されています。

○議長（大野祐司君） ほかに質疑ございませんか。

大倉議員。

○6番（大倉あき子君） すみません、大倉です。よろしく申し上げます。クリーンプラザふじみの視察・見学者数のことでちょっと確認で質問させていただきます。

学校の社会科見学、今回の37ということで校数出ているんですけれども、調布の小学校が20で、三鷹が15校、たしか全部で35校ということで、これは全調布、三鷹の小学校35校実施した上で、あとの2校はどこか私立の小学校ということでよろしいでしょうか。

○議長（大野祐司君） 荻原事務局長。

○事務局長（荻原正樹君） 正確に申し上げますと三鷹は13校が来場で、2校はオンライン見学ということになっておりまして、具体的には第三小学校と高山小学校、調布の20校は全て来場されています。それで残りですけれども、私立ということで三鷹の明星学園、それから、調布のドルトン東京学園、それと調布の晃華学園ということで3校来ております。そうすると1校合わないのですが、実は三鷹の小学校で月をまたいで2回に分けてきた学校がありまして、ダブルカウントされているものですから、合計37という数字になっております。

○議長（大野祐司君） 大倉議員。

○6番（大倉あき子君） ありがとうございます。それともう一つの確認なんですけれども、リサイクルセンターの審査講評の非価格要素審査の部分の17ページ、地域住民への対応ということで、こちら屋上を活用した地域住民に親しまれる施設という発注者の要望に合致した提案を評価となっているんですけれども、実際どのようなイメージをされているのかお伺いしたいと思います。

○議長（大野祐司君） 荻原事務局長。

○事務局長（荻原正樹君） 民間事業者の提案内容でございますので、ノウハウの部分もありますので、正確には詳しくは申し上げられないので申し訳ないと思っておりますが、少なくとも屋上を住民の皆様へ開放しようということで、今後具体的にどんなものを入れていくのかということを検討してまいります。一つ、民間事業者さんから提案があったのは、屋上に足湯を設けようというような提案がありましたが、それを受けるかどうかは今後、設計協議によるところでございます。

また、できれば地元の皆様を含め、市民の皆様のご意見を伺ってから設計に入りたいというようなことも聞いていますので、地元協議会等でも屋上の使い方について協議をいただこうと思っております。

○議長（大野祐司君） ほかに質疑はございませんか。

松野議員。

○3番（松野英夫君） ご説明、ありがとうございました。

私からは資料8の（仮称）新リサイクルセンター整備及び維持管理委託事業審査講評について、質問させていただきます。

この書類の14ページの中に、安全管理、リチウム電池等による火災・爆発等を等々記載が

あります。調布市内でも昨年多分、施設外なんですけども、パッカー車が2件、火災が起こったと思います。昨日も飛田給のほうでもパッカー車の火災が1件あったかと思われます。やはり燃えないごみの日となって、恐らく、昨日は燃えないごみの日だったので、飛田給の燃えないごみの日に合わせて、多分そのような火災が発生したのかなと思っております。

これは原因はリチウム電池か分からない、正確には把握はできていないのですけども、そのリチウム電池の火災発生というのは、言わばやはり多くなってくるのかなというのは感じております。パッカー車に限らず、この施設内においてもこのリチウム電池の火災は、恐らく対応していかなければならない事柄なのかなと思っているんですけども、この講評の中に、リチウム電池発火、施設の安全管理等々で、具体的な経験則に基づいて提案をしているということなんですけども、今現在、このような具体的な提案、また、今後講評の加点がアップできるような改善点等々がございましたら、教えていただければと思います。

○議長（大野祐司君） 荻原事務局長。

○事務局長（荻原正樹君） リサイクルセンターのような中間処理施設で、火災の原因の一番のポイントは、リサイクルするために品物を細かく砕く。その過程で細かく砕いたことによって、圧力がかかったりすることで発火するという事例が非常に多いということがございますので、新しいリサイクルセンターについては、できるだけそういった細かく砕くような工程を省くと。

その代わり、人の目や手で、あらかじめ発火しそうなものについては、取り除くというような過程。それからもう一つは、万が一、発火する可能性があるので、例えば温度センサーですとか煙センサー、そういった数々のセンサーを取り付けるというような提案もいただいております。

また、実際に発火した場合ですけれども、放水銃と言いまして、通常は水を放水して火を消すというようなものなのですが、それも単なる水ではなくて、例えば泡消火器のような泡、そういったものを発射するような提案もいただいておりますので、今後設計協議の中で二重三重の発火防止に努めていきたいというふうに考えております。

○議長（大野祐司君） 松野議員。

○3番（松野英夫君） ご説明ありがとうございました。

事前にうまく回収できるシステムがあれば一番いいことなんですけども、やはり火災が

発生しないことと、あと、作業員の方の安全第一という点も含めて、改めて常々改善点を模索しながら、取り組んでいただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

以上です。

○議長（大野祐司君） ほかに質疑はございませんか。

大城議員。

○10番（大城美幸君） 1点だけ。資料8の13ページの得点の合計の先ほど説明で、33.43で、高得点というふうにおっしゃいました。50点満点の33.43、100点満点だと66%だと思うんですが、70%、80%いかないのに高得点という評価ができるのか不思議なんです、その意図をお聞かせいただきたいと思います。

○議長（大野祐司君） 荻原事務局長。

○事務局長（荻原正樹君） 非価格要素審査点につきましては、提案内容が仕様書のレベルを大幅に上回っている場合に加点をするという方法でございますので、仕様書どおりの提案では0点ということになります。したがって、33.43点というのは非常に非価格要素審査点としては高いということで、一例で申し上げますと、焼却施設、クリーンプラザふじみのときにも、3者から提案をいただきましたけれども、その3者の最高得点が27.9点でございました。ですから、クリーンプラザふじみの3者の提案よりも、さらに今回リサイクルセンターの提案のほうが高かったということで、高く評価をしたというふうに申し上げます。

○議長（大野祐司君） 大城議員。

○10番（大城美幸君） 加点方式だから、クリーンのときは27.9点で高評価、今回は33.43で高評価ということなんですが、他の全国の事例等とかでもこのような状況なんですか。点数だけを見るとやはりどうしても学校の成績とか見ても40点、50点とかそういうのでどうなのかなというのがあるので、また、次の議案でもやりますが、お答えがあれば。

○議長（大野祐司君） 荻原事務局長。

○事務局長（荻原正樹君） 全国の事例を見ますとやはり得点的には40%から60%ぐらいの得点が一番多いということですので、今回66%、100でいうと66%になりますから、全国のほかの事例に比べましても、今回の提案内容はよかったと思っているところでございます。

○議長（大野祐司君） ほかに質疑ございますか。

澤井議員。

○2番（澤井慧君） 質問しようと思いましたが、同様なので、あまり深くは聞かないんですけども、この33.43点という、高得点だというご発言に対して、僕も同じような認識を持ったので聞こうと思いました。改めて高得点だったということについて、次ページ以降、講評ありますけれども、衛生組合として何か特筆すべき事項、特にすぐれている点があれば伺いたいと思います。

○議長（大野祐司君） 荻原事務局長。

○事務局長（荻原正樹君） それでは、一般の方に非常に分かりやすい例で1点だけ申し上げますと、廃棄物処理施設というのは俗に迷惑施設というふうに日本でも言われています。ふじみ衛生組合の場所を考えますと、やはり周辺に住宅がたくさんありますので、できるだけ迷惑施設にたくないというのがあります。

したがって、公害防止基準も、ふじみ衛生組合が求めている公害防止基準よりもさらに厳しい自主規制値を今回提案していただいていますし、外観につきましても、廃棄物処理施設というふうに分からないような、例えば色であればクリーンプラザふじみと強調したような色にしている。また、形状につきましては、隣の三鷹中央防災公園・元気創造プラザと似たような横に強調するようなデザインになっているということで、できた暁には、その辺を評価していただければと思っております。

○2番（澤井慧君） 楽しみにしています。

○議長（大野祐司君） ほかに質疑はございませんか。よろしいですか。

（「なし」の声あり）

○議長（大野祐司君） それでは、以上で質疑を打ち切ります。

以上4件は報告のとおりご了承をお願いしたいと思います。これにご異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

○議長（大野祐司君） ご異議なしと認め、管理者報告のご了承をお願いいたします。

日程第4 議案第1号 ふじみ衛生組合一般職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例の専決処分について

○議長（大野祐司君） 次に、日程第4、議案第1号、ふじみ衛生組合一般職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例の専決処分についてを議題といたします。

事務局に提案の朗読をお願いします。

上野事務局次長。

(事務局朗読)

○議長（大野祐司君） 朗読は終わりました。

続いて、管理者から提案理由の説明を求めます。

河村管理者。

○管理者（河村孝君） 議案第1号、ふじみ衛生組合一般職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例の専決処分につきまして、提案理由の説明を申し上げます。

当組合職員の給与の改定につきましては、従来から三鷹市に準じて実施してきたところでございますが、「三鷹市職員の給与に関する条例の一部を改正する条例」が、三鷹市議会におきまして、令和6年11月29日に可決されまして、同日から施行されました。

これに伴いまして、ふじみ衛生組合一般職の職員の給与に関する条例を改正する必要性が生じましたが、議会を招集する時間的な余裕がないことが明らかでございましたので、地方自治法第292条において準用する同法第179条第1項の規定に基づき、当該条例を令和6年11月29日付で専決処分いたしました。

改定の内容でございますが、まず、給料表の改定について、公民較差解消のため、給料表の引上げを行うこととし、全級全号給を改めるとともに、初任給の引上げを行いました。

次に、期末手当の支給率について、100分の120を100分の125とし、勤勉手当の支給率については、100分の112.5を100分の117.5に引き上げます。なお、期末・勤勉手当の特例として、令和6年度の支給に当たっては、12月期の支給率について期末手当を100分の130、勤勉手当を100分の122.5とします。

この条例は、令和6年11月29日から施行し、給料表の改定については、令和6年4月1日から適用いたします。

提案理由の説明は、以上のとおりでございます。

どうぞよろしくご審議のほど、お願い申し上げます。

○議長（大野祐司君） これより質疑に入ります。質疑はありますか。野村議員。

○8番（野村羊子君） それでは、幾つか質問させていただきます。

今回、三鷹市の給与改定に合わせて、ふじみの一般職の職員の給与改定ということですが、これに関しては、予算が当初予算の中で収まるというふうな中でやりくりができたということでのいいのか、あと、会計年度任用職員に対してはどのような処遇になってい

るのかというのを確認したいと思います。

○議長（大野祐司君） 荻原事務局長。

○事務局長（荻原正樹君） 予算の関係でございますが、足りなくなる部分もございます。そういった部分につきましては、流用により対応を行っております。また、会計年度任用職員につきましても、三鷹市と同等の対応としております。

○議長（大野祐司君） ほかに質疑はございませんか。よろしいですか。

（「なし」の声あり）

○議長（大野祐司君） では、以上で質疑を打ち切り、討論を省略して採決したいと思います。

これにご異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

○議長（大野祐司君） ご異議なしと認め、これより採決いたします。

議案第1号、ふじみ衛生組合一般職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例の専決処分について、原案のとおり了承することに賛成の方の挙手を求めます。

（賛成者挙手）

○議長（大野祐司君） 満場一致と認めます。よって、本案は原案のとおり承認されました。

日程第5 議案第2号 ふじみ衛生組合一般職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例

○議長（大野祐司君） 次に、日程第5、議案第2号、ふじみ衛生組合一般職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例を議題といたします。

事務局に提案の朗読をさせます。

上野事務局次長。

（事務局朗読）

○議長（大野祐司君） 朗読は終わりました。

続いて、管理者から提案理由の説明を求めます。

河村管理者。

○管理者（河村孝君） 議案第2号、ふじみ衛生組合一般職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例につきまして、提案理由の説明を申し上げます。

この条例は、東京都人事委員会の勧告を踏まえ、諸手当について所要の改正を行う内容となります。

改正の内容としては、1点目として、扶養手当について配偶者に係る扶養手当を廃止し、子に係る手当額を現行の9,000円から1万3,000円に引き上げることとします。これら配偶者に係る扶養手当の廃止及び子に係る手当額の引上げは、令和7年度の経過措置を経て2年をかけて実施します。

2点目は、地域手当の支給割合について、特別区を除いた東京都の地域手当は2級地とされたことに伴い、支給割合を現行の15%から16%に引き上げることとします。

3点目は、通勤手当について、支給限度額を現行の5万5,000円から15万円に引き上げることとします。

4点目は、管理職員特別勤務手当に係る支給対象時間帯を拡大し、午後10時から翌日の午前5時までとすることとします。

この条例は令和7年4月1日から施行します。

提案理由の説明は、以上のとおりでございます。

どうぞよろしくご審議のほど、お願い申し上げます。

○議長（大野祐司君） これより審議に入ります。質疑はありますか。野村議員。

○8番（野村羊子君） これも三鷹市と同様の変更というか、人事委員会の勧告に従ってということですけども、扶養手当に関して、民間だと給与基準、給与額によって扶養手当を出したり出さなかったりというふうなことがあります。ここではそれはなく単に配偶者がいるか、いたけども、それはなくなる、子供がいれば18歳未満でしたか、出すという、そういう規定としてということに理解してよろしいのか。

それで地域手当に関しては、調布市さんと比べると15で、どちらにしてもこれは都内全域16%にするということなので、その辺の整合性がとれるようになったというふうな理解をしていいのかというのをちょっと確認したいと思います。

○議長（大野祐司君） 荻原事務局長。

○事務局長（荻原正樹君） まず、1点目の扶養手当でございますが、所得の制限等はございません。2点目でございます。調布市との整合性ということでございますが、調布市については、既に16%の支給地域でございますが、調布市の職員につきましても、地域手当のみならず給与表そのものも違うということから、ふじみ衛生組合に派遣される調布市の職員につきましても、調布市で1年間働いた場合の年収、そして、ふじみ衛生組合で

1年間働いた場合の年収をそれぞれ計算いたしまして、職員に不利益になる場合には、調整を行っているというような状況でございます。

○議長（大野祐司君） ほかに質疑はございませんか。

丸田議員。

○4番（丸田絵美君） ご説明ありがとうございます。

調布市と三鷹市で若干違いがあるということで、昨年、調布市では、交通の通勤の手当に関して、出張の場合、自転車等で通勤されている方が不利益にならないように、ふだんは自転車なんだけど、どこか行くときにはバスを使わなきゃいけないとかなったときには、その手当がつくというふうになっていると思うんですけども、今回はそういう適合は考えていないのでしょうか。

○議長（大野祐司君） 荻原事務局長。

○事務局長（荻原正樹君） 自転車通勤している職員が、出張でバスを利用した場合については、三鷹市でも既にバス代が出るというような仕組みになっております。

○議長（大野祐司君） ほかに質疑はございませんか。よろしいですか。

（「なし」の声あり）

○議長（大野祐司君） これより討論に入りますが、討論はありませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（大野祐司君） 以上で討論を打ち切ります。

これより採決いたします。

議案第2号、ふじみ衛生組合一般職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例について、原案のとおり決することに賛成の方の挙手を求めます。

（賛成者挙手）

○議長（大野祐司君） 満場一致と認めます。よって、本案は原案のとおり可決されました。

日程第6 議案第3号 ふじみ衛生組合（仮称）新リサイクルセンター建設工事請負契約の締結について

○議長（大野祐司君） 次に、日程第6、議案第3号、ふじみ衛生組合（仮称）新リサイクルセンター建設工事請負契約の締結についてを議題といたします。

事務局に提案の朗読をさせます。

上野事務局次長。

(事務局朗読)

○議長（大野祐司君） 朗読は終わりました。

続いて、管理者から提案理由の説明を求めます。

河村管理者。

○管理者（河村孝君） 議案第3号、ふじみ衛生組合（仮称）新リサイクルセンター建設工事請負契約の締結につきまして、提案理由の説明を申し上げます。

本件は、（仮称）新リサイクルセンター建設工事の施行に当たりまして、設計と建設工事の請負契約を締結するものでございます。

契約の方法は、総合評価一般競争入札で、契約の金額は消費税を含めまして239億2,500万円、契約の相手方はJFEエンジニアリング株式会社であります。

なお、詳細につきまして、事務局長から補足説明させていただきます。

提案理由の説明は、以上のとおりでございます。

どうぞよろしくご審議のほどお願い申し上げます。

○議長（大野祐司君） 荻原事務局長。

○事務局長（荻原正樹君） 議案第3号、ふじみ衛生組合（仮称）新リサイクルセンター建設工事請負契約の締結につきまして、補足説明をさせていただきます。

4枚目にあります「参考資料」の工事概要をご覧ください。

工事の場所は、調布市深大寺東町7丁目50番地30で、このふじみ衛生組合の敷地内です。施設の規模、処理能力につきましては、不燃ごみ・プラスチック類など合計で5時間当たり95トン进行处理できる施設規模であります。工期は、契約確定日の翌日から令和11年3月31日までです。

契約後の予定ですが、契約後、直ちに設計協議を進め、令和8年1月頃までに実施設計を完了し、同年2月頃の着工を予定しております。その後、令和10年9月からの試運転を経て、令和11年3月の竣工を目指します。

私からの説明は以上でございます。

○議長（大野祐司君） これより質疑に入ります。質疑はありますか。谷口議員。

○7番（谷口敏也君） この資料だけだとちょっと読めないんですけど、契約の金額が239億で、令和11年3月まで、今も年々物価が上がっているじゃないですか。物価高騰の物価スライドみたいなものというのは、契約条項に入っているんですか。

○議長（大野祐司君） 荻原事務局長。

○事務局長（荻原正樹君） 物価スライドの件でございますが、契約条項に入っております、プラスマイナス1.5%以上変動した場合には、協議によって契約金額の見直しを行うということになっております。

○議長（大野祐司君） ほかに質疑はございませんか。

野村議員。

○8番（野村羊子君） 新リサイクルセンターですけれども、先ほどの報告でありましたように、整備と維持管理を本来であればというふうなことです、今回の契約は建設工事のみというふうなところ。ですから、先ほどの報告の資料8にあったように、入札価格288億2,000万というところでの得点19.4という得点というふうなところでありますが、その差額が今後の運営費だというふうに見ていいのかというのを、ちょっと確認したいと思います。

○議長（大野祐司君） 荻原事務局長。

○事務局長（荻原正樹君） 運營業務につきましては、議決に付すべき案件ではございませんので、今回除いてあります。あくまでも今回は建設工事請負契約のみということでございまして、今ご質問のとおり、入札金額は288億2,000万円でございますので、そこから建設費239億2,500万円を引いた48億9,500万円が、20年間の運営費ということになります。

○議長（大野祐司君） 野村議員。

○8番（野村羊子君） ただ、今回本来であればセットで入札してもらわなければならないので、契約そのものも本来セットで行うものではないのか。これは別々の契約、建設工事と運営契約と2つの契約をやるということですか。

○議長（大野祐司君） 荻原事務局長。

○事務局長（荻原正樹君） 契約につきましては契約の相手方も違うということから、建設請負契約と運營業務委託契約は別々の契約となります。

○議長（大野祐司君） 野村議員。

○8番（野村羊子君） 建設はJFEエンジニアリングで、運営その他はサルスベリグループというふうに分かれているという理解でいいですか。

○議長（大野祐司君） 荻原事務局長。

○事務局長（荻原正樹君） 運営につきましては、先ほども申し上げましたとおり、特

別目的会社、SPCと言っていますけれども、この運營業務に特化した会社と契約をすることになりますので、JFEでもございませんし、サルスベリグループでもない、新しくつくった会社という形になります。

○議長（大野祐司君） 野村議員。

○8番（野村羊子君） そうすると入札提案との関係が見えなくなるんじゃないんですかね。整備と維持管理に合わせて入札をして、建設は一部であっても、その入札に応じたサルスベリグループというところとは全く別で、JFEが提出をし、全く別で運営するというふうなことに見えてしまうということはどういうことになるのでしょうか。

○議長（大野祐司君） 荻原事務局長。

○事務局長（荻原正樹君） あくまでも入札に参加したのがJFEグループをはじめとするサルスベリグループということで、提案内容の中で、運営については、こういった特別目的会社も設置、設立して、運営を行うというような提案となっております。これは一般的なやり方でございます。

○議長（大野祐司君） 野村議員。

○8番（野村羊子君） そうすると、この契約、入札全体の整備及び維持管理の業務・事業の最終的な責任は誰が持つということになりますか、この委託先、契約先相手というのはJFEが最終的に責任を持つと理解していいのでしょうか。

○議長（大野祐司君） 荻原事務局長。

○事務局長（荻原正樹君） 全体の責任ということであれば、JFEエンジニアリングが全てを持つということになります。

○議長（大野祐司君） 野村議員。

○8番（野村羊子君） それは契約書その他で明示されるものですか。

○議長（大野祐司君） 荻原事務局長。

○事務局長（荻原正樹君） 契約書等で明示をされるものでございまして、万が一、建設業務や運營業務で何か問題が発生した場合には、全てJFEエンジニアリングが持つということで、保険等もJFEエンジニアリングが掛けるというようなことになっております。

○議長（大野祐司君） 野村議員。

○8番（野村羊子君） 分かりました。いろんなことが起こる、特に最近建設工事などでもいろんな事故が起きています。多分、職人さんがいなくなっているというようなこと

も含めて、いろんな事態があつて、思わぬことが起こるといったときにどう対処するのか。JFEさんであれば、大きな会社なのでそれなりの対応、対策を持っていらっしゃると思いますけども、その辺りもしっかりと確認しながら、対応していただきたいと思えます。

物価高騰に関しては先ほど質疑があつたので、本当に国交省のほうでも工事単価を16%ですかね、上げるというぐらいのことを今回やってきているので、この先ちょっと見えなところでの対応と思えます。慎重に丁寧に進めていただければと思えます。ありがとうございます。

○議長（大野祐司君） ほかに質疑ございませんか。

大城議員。

○10番（大城美幸君） 昨年、私のところにこの事案について問題提起を唱える匿名での手紙がありました。調査をしましたが、指摘を受けた点で事実と異なる点がありました。しかし、そのほかの点で、それが事実かどうかというものを証明するもの、また事実ではないのか、事実ではない、間違っていないというどちらとも言えない状況で、納得いく証拠も見つかりませんでした。そのことから入札の今回の透明性、公平性を明らかにすることがとても重要と考えていて質問をしたいと思えます。

先ほど来の説明等で、入札1回目の不調になったとき、資料をもらいに来た企業が2者で、その後、不調に終わり、結局最終的には1者あつた。一般競争入札であるんですが、1者にとどまったということを理事者、事務局等はどのようにお考えでしょうか、まず、お伺いします。

○議長（大野祐司君） 河村管理者。

○管理者（河村孝君） 1者に終わったというのは大変残念ではありますが、実際にごみ処理施設に関して、やっていらっしゃる会社自体が非常に限られている業界というふうに認識しておりまして、そういう意味では、最悪の状態は避けられたというふうに、それを1者、申込みがあつたということを私どもとしては、ほっとしているところでございます。そういう意味で、どこも手を挙げない可能性もあつた中で、よく1者、手を挙げていただいたと思っているところでございます。

○議長（大野祐司君） 大城議員。

○10番（大城美幸君） つまり物価高騰の影響が大きくて参加する企業がどこもないかもしれないという予測の下、1者でもあつたからよかったというお考えなんですか。

競争入札の比べるところ、2者、3者あって比べるところがあって、競争入札の利点が生かされるべきだと思うんですが、1者あったからよかった、それで合格点だからよかったで、そのまま決めていいものかという疑問が残るんですが、いかがでしょう。

○議長（大野祐司君） 河村管理者。

○管理者（河村孝君） 私は全国でもというのは、多摩の地域の中でごみの処理施設に関して、1者しか手を挙げないとかいう事例は聞き及んでいます。そういう意味で言いますと、私どもの責任からすると市民生活の維持、安全に維持管理をしていくという視点から見ると、どこも手を挙げないで何もしなくて、入札が成立しないという事態を一度は迎えたわけでありますから、そういう意味で最悪の事態は避けられたという意味で、やむを得ないのではないかと。それによって、少しでも前進したのではないかと考えているわけです。

問題は物価の高騰だけの問題じゃなくて、人材の不足という問題もあるんです。そういう意味で、全体の日本の経済の中でそういう今、私の役所でずっと生活してきた人生の中でも非常に珍しい事態なんです。調布市も三鷹市も東京都も全体そうですけども、予算額は上がっている。

しかし、そういう少子高齢化という事態の中でまた物価とか人材において、相当な厳しい状況に陥っているということを考えると、もう一度繰り返しますが、最悪の事態は避けられた。これを延ばせば、先ほどご質問の中でも若干、別の角度からであると思えますけれども、先行きが見通せない。1年待って業者、また、いっぱい出てくるという可能性があまり見込みづらいじゃないですか。そういう状況の中で、市民生活のごみの問題というのは非常に大切な問題でありますし、ごみが氾濫してまちの中で衛生管理の問題もどんどん波及してきますから、そういう意味では、こういう言葉は使いたくないですけど、やっぱり非常事態の中で、現在の選択をしたというふうに私どもは認識しております。

○議長（大野祐司君） 大城議員。

○10番（大城美幸君） ご答弁ありがとうございます。最悪の実態は避けられという理事者の考えが分かりました。

先ほどもリサイクルセンターの審査講評の点で質問した得点結果で、講評では、独自対策など提案を高く評価していると書いてあります。でも、満点にいかなかった、ふじみとしてここが不足しているとか、もっとこういうことがあるんじゃないかということで、考えている点があったのか、あれば、それをお聞かせいただきたいと思います。

○議長（大野祐司君） 荻原事務局長。

○事務局長（荻原正樹君） 審査講評の点数で、欠けていた部分がどのようなことがあるのかということですが、19ページに講評が書いてございまして、審議会で以下に示す要望事項も掲げられたということで、（1）から（8）まで努力してほしいという内容が入っていますので、こういった面が満点にならなかった理由と考えていただければと思います。

○議長（大野祐司君） 大城議員。

○10番（大城美幸君） 昨今、地球温暖化問題等、環境への配慮、あと騒音とか市民への、もちろん働く人の安全管理は第一で、この言った中に19ページの（4）等で安全の問題等を書いてありますが、環境、安全管理も先ほど言った合計点も66%で、環境の特に脱炭素のところでは、ここにはないと思うんです。どのような目標というか、もっとさらなる向上を目指すべきだと思うんです。

私は先ほど来、全国が60%が最高点だから、三鷹、調布もこのふじみも、その横並びでよしとしていいのか、やっぱりもっと今後のことを考えても70%いくぐらいのことを目指すべきだったのではないかと考えるので質問をしていますが、いかがでしょうか。

○議長（大野祐司君） 荻原事務局長。

○事務局長（荻原正樹君） 今、CO₂削減のお話が出ましたけれども、今回の提案の中にも、できるだけ省エネ型の機器を用いて、消費電力を少なくするというような環境対策もうたっておりますし、太陽光発電等を行って、電力をできるだけ購入しないようにするというような提案もいただいております。

ですので、ある程度一定程度の評価したわけですが、さらに、評価が高く点数をとるためには、例えば建物の中に蓄電池を設けまして、夜間電力、夜間は電力を使わないわけですから、夜間電力を蓄電池に蓄えて、昼間、電力が必要なときにその蓄電池から電力を使うということになればさらなるCO₂の削減ができますから、そういった提案があれば、さらに高得点にはなるんですが、それだけの蓄電池を今回、建物の中に設けるということは、逆に言うと建設費がそれが上がってしまうので、そこまでの提案ができなかったんだろうと考えているところですが、今の価格の範囲の中では、かなりいい提案をしていただいたのではないかとこのように認識はしているところでございます。

○議長（大野祐司君） 大城議員。

○10番（大城美幸君） 状況は分かりました。

最後に再度伺いますが、1者しか応募がなくて比べるところがない。公平性、入札の競争というかその実践が担保されたと、それでも担保されたんだと、最悪の実態を避けたから、競争入札としての利点が担保されたというふうにお考えでしょうか。

○議長（大野祐司君） 河村管理者。

○管理者（河村孝君） 最初から仕組みとして特命随契とかそういう形で選んでいませんから、門戸は開きながら1者になったという、これは結果論であると思っています。最初から、そこは1者でやりますということだったら、ご指摘のようなことはあると思いますが、そういう意味で制度的に私どもに何らかのそういう、最初からそういう思いがあったという話ではありません。こういう状況は、私どもの市だけで、ふじみだけではなくて、また、それぞれの市でも同じような状況が起きていることを考えると、やっぱり非常事態として、最悪の事態を避けることができたということであるというふうに私どもは認識しているということでございます。

○議長（大野祐司君） ほかに質疑ございますか。

澤井議員。

○2番（澤井慧君） 1点お伺いさせていただきます。

入札不調の後、再度、契約ができたということで、大幅な増額になったということは事実だと思っています。大幅増額ということはいわゆる市民の負担金も増えていくということだと思うんですけども、改めて239億という非常に大きな事業についてのこの財源、どのような財源を活用していくのか、その辺りの内訳というんですか、その辺りを教えていただけると助かります。

○議長（大野祐司君） 荻原事務局長。

○事務局長（荻原正樹君） 財源内訳でございますが、後ほど予算のところ出てきますが。

○2番（澤井慧君） 後ほど大丈夫です。

○事務局長（荻原正樹君） よろしく申し上げます。

○議長（大野祐司君） ほかに質疑ございませんか。

丸田議員。

○4番（丸田絵美君） 先ほどのやり取りをお伺いをしていてちょっと私も認識は思ったんですけど、まず、4ページ、5ページのこの入札の運営、これを見ていると比較審査があり、検討して失格、右側の端に失格という箱があります。次のページもそうですね、

自分でちょっと必ずどこかで失格という箱があるんですけども、まずそもそもこの配点方式がきちんと全部できているという段階がゼロ、あと加算だというふうにお伺いをしているので、100点満点が到達点ではなく、多分その水準に行くところで、まずクリアをしているという認識でいるんですけども、それでよろしいですか。

○議長（大野祐司君） 荻原事務局長。

○事務局長（荻原正樹君） 認識のとおりでございます、加点方式でございますので、100点満点をとろうとすると、建設工事費がとんでもない金額になると考えていますから、一般的には、先ほど全国レベルでも40%から60%の得点というレベルでございますので、今回、非常に提案内容がよかったというふうに評価しております。

○議長（大野祐司君） 丸田議員。

○4番（丸田絵美君） ありがとうございます。それを踏まえまして、この右側に失格、失格、失格という箱があるんですけども、1者でも満たない場合はこの失格の箱に入ってしまうって、もう一度やり直しということも、可能性としてはあったというふうに理解をしてよろしいですか。

○議長（大野祐司君） 荻原事務局長。

○事務局長（荻原正樹君） ご理解のとおりでございます、資格審査、基礎審査、そして価格審査というそれぞれの段階におきまして、要件を満たしていない場合には、失格、1者であったとしても失格になります。

○議長（大野祐司君） 丸田議員。

○4番（丸田絵美君） ありがとうございます。その上で、無事に今回ここまでたどり着いたということで、ちょっとほっとしているところですけども、これまでも調布市もPFIなりいろいろ運営をその後、委託をするということをやっております、やっぱり一番重要なのは地域の皆様、市民の皆様の長い間の運営の理解をどういうふうに整えていくかということはずごく大切なところなんです。

もちろん工事の最中でいろんな不利益があつたりとかしたら、それは工事に関してはすぐに対応してくれると思うんですけど、その後の長いスパンの運営でいろんなひずみが出てくると、やはりよろしくないんですけども、この運営のときに、20年、お任せしますよというだけじゃなくて、どういう段階でチェックをしていくかということがやっぱりとても重要になってくるんですけども、そのチェックはどのような形で考えていらっしゃるかお伺いしたいんです。

○議長（大野祐司君） 荻原事務局長。

○事務局長（荻原正樹君） クリーンプラザふじみの事例でもあるんですが、必ずモニタリングと言いまして、職員が仕様書に対してしっかりその仕様を守って運営をしているかどうかのチェックをいたします。そして、それについては議会にも報告しておりますし、ホームページにも掲載しております。そのような形で、リサイクルセンターにつきましても、同様にモニタリングをしっかり行って、その結果につきましては、広く市民の皆様に公表していきたいと考えております。

○議長（大野祐司君） 丸田議員。

○4番（丸田絵美君） ありがとうございます。モニタリングはとても重要なんですけども、そこにやはり市民の声、市民アンケートですとか、見学に来られた方とか、地域住民のアンケートとか、そういうのをやはり気配りをしていただいて、最低年に1回とかそのぐらいは調査を続けていただきたいなと思います。これは要望です。よろしくお願いたします。

○議長（大野祐司君） ほかに質疑ございませんか。よろしいですか。

（「なし」の声あり）

○議長（大野祐司君） 以上で質疑を打ち切ります。討論ございますか。大城議員。

○10番（大城美幸君） 討論します。

入札には価格の正当性が分かりやすいというメリットのほか、公正な競争が期待できることや、透明性が高いといったメリットがあります。しかし、今回の入札は大幅増額したにもかかわらず、応募が1者しかありませんでした。入札の利点が生かされたとは言えないと考えます。また、審査講評から見て、これからの時代、社会において安全管理、地域環境への配慮はとても重要事項と考えますが、得点が66%、70%に達していません。全国平均の60%を超えて高得点と評価をしていることは、それでよしとすることは納得できないため、反対します。

○議長（大野祐司君） ほかに討論はございますか。よろしいですか。

（「なし」の声あり）

○議長（大野祐司君） それでは、これより採決に入りたいと思います。

議案第3号、ふじみ衛生組合（仮称）新リサイクルセンター建設工事請負契約の締結について、原案のとおり決することに賛成の方の挙手を求めます。

（賛成者挙手）

○議長（大野祐司君） 挙手多数。よって、本案は原案のとおり可決されました。

日程第7 議案第4号 令和6年度ふじみ衛生組合補正予算（第3号）

○議長（大野祐司君） 続きまして日程第7、議案第4号、令和6年度ふじみ衛生組合補正予算（第3号）を議題といたします。

事務局に議案の朗読をさせます。

上野事務局次長。

（事務局朗読）

○議長（大野祐司君） 朗読は終わりました。

続いて、管理者から提案理由の説明を求めます。

河村管理者。

○管理者（河村孝君） 議案第4号、令和6年度ふじみ衛生組合補正予算（第3号）につきまして、提案理由の説明を申し上げます。

補正予算の概要でございますが、歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ1億9,000万円を増額し、総額を34億1,098万6,000円とするものでございます。

その内訳は、歳入において繰越金を3億2,366万2,000円増額し、この繰越金の精算等に伴い、分担金及び負担金を2億2,366万2,000円減額するものでございます。また、可燃ごみ処理施設売電収入の増が見込まれるため、諸収入を9,000万円増額するものでございます。

歳出におきましては繰越金の精算等に伴い、総務費の施設整備基金積立金を1億円増額するとともに、可燃ごみ処理施設売電収入の増に伴い、事業費の売電収入相当額委託料を9,000万円増額するものでございます。

提案理由の説明は、以上でございます。

どうぞよろしくご審議のほどお願い申し上げます。

○議長（大野祐司君） これより質疑に入ります。質疑はありますか。野村議員。

○8番（野村羊子君） 例年の調整というか、補正予算だと思いますけれども、今回、予定額、繰越金が多かった、決算でやっていて確定をするというふうなことだと思いますけれども、これが分賦金それぞれ与えた影響、結果的に分賦金の金額が、これが例年並みになっているのかどうか。そして、この繰越額の金額という主な要因というのは何だと言えるのかというふうなこと、それから、売電収入はこの金額だと思いますが、あと設備基金、

施設整備基金積立てをさらに増やすということですが、これに関しては、これの最終的な現在の積立額、補正による積立額というのを確認したいと思います。

○議長（大野祐司君） 荻原事務局長。

○事務局長（荻原正樹君） まず繰越金が発生した要因でございますけれども、令和5年度決算において、歳入においては廃棄物処理手数料の増、そして諸収入の増ということで、有価物品の売払収入、それから、容器包装リサイクル法に基づく有償入札拠出金の増などがございました。

また、歳出におきましては総務管理費の減、それから、リサイクルセンターの運営費の減、そしてクリーンプラザ運営費の減ということで、光熱水費や各種工事等の減がございました。

そして、建設費につきましても、若干の職員人件費等の減がございましたので、そういったものを合わせまして、3億円を超える金額になったということでございまして、例年、多少のプラスマイナスはありますけれども、大体このぐらいの金額で推移をしているというような状況でございます。一昨年と比べると若干高くなるというようなことはございません。

そして基金のほうでございまして、毎年1億円積み立てるということですが、令和6年度において2億取り崩す予定でございます。したがって、今ここで1億積み立てますと、約2億円になります。

○議長（大野祐司君） 野村議員。

○8番（野村羊子君） 今回その基金の積み立て、私は割と毎回言っていますけれども、分賦金を返すのを減らして、基金をちゃんと積んだほうがさらにこの先、現実に動いていく中で、動かすことが楽になるのではないかというふうなことを含めて言っていると思うんですが、あまりそういうことを考えて、例年のように分賦金を減らすということで、これはやはり例年ぐらいの金額を確保する必要性に、ふじみ組合としては迫られているというか、求められているということなのかどうかということを再度確認したいと思います。

○議長（大野祐司君） 荻原事務局長。

○事務局長（荻原正樹君） 基金の積立てでございますが、後ほど令和7年度予算にも出てまいりますけれども、建設期間中というのはあまり一般財源の支出がございません。どちらかというところの部分を起債、ローンを組んで建設するということになりますので、その起債の償還、返済にお金がかかるということでございますので、実際に起債の

償還が始まって、少し積み立てなければいけないというような状況が生じましたら、また、三鷹市、調布市ともご相談の上、金額については、精査をさせていただきたいというふう
に考えております。

○議長（大野祐司君） ほかに質疑はございませんか。よろしいですか。

（「なし」の声あり）

○議長（大野祐司君） 以上で質疑を打ち切ります。

これより討論に入りますが、討論はありますか。

（「なし」の声あり）

○議長（大野祐司君） 以上で討論を打ち切ります。

これより採決いたします。

議案第4号、令和6年度ふじみ衛生組合補正予算（第3号）について、原案のとおり決
することに賛成の方の挙手を求めます。

（賛成者挙手）

○議長（大野祐司君） 満場一致と認めます。よって、本案は原案のとおり可決されま
した。

日程第8 議案第5号 令和7年度ふじみ衛生組合予算

○議長（大野祐司君） 続きまして、日程第8、議案第5号、令和7年度ふじみ衛生組
合予算を議題といたします。

事務局に議案の提案を朗読させます。

上野事務局次長。

（事務局朗読）

○議長（大野祐司君） 朗読は終わりました。

続いて、管理者から提案理由の説明を求めます。

河村管理者。

○管理者（河村孝君） 議案第5号、令和7年度ふじみ衛生組合予算につきまして、提
案理由の説明を申し上げます。

ふじみ衛生組合は、構成市である三鷹市、調布市の両市民の可燃ごみ、不燃ごみ及び資
源物の適正処理など、市民の皆様が安全・安心に生活していただくために欠かすことので
きない事業を行っております。

また、その運営は、市民の皆様のご理解に基づき、地域の環境を損ねることなく適切に行われなければなりません。

そして、この目的を達成するためのふじみ衛生組合が経営するごみ処理場の運営経費は、その大半が組織市の分担金で賄われておりますが、両市及び組合の行財政を取り巻く環境は、人件費の上昇や資源・資材価格をはじめとした物価の上昇などによりまして、今後も厳しい状況が続くことが予想されます。

そこで、この厳しい状況を認識いたしまして、ふじみ衛生組合の令和7年度の予算編成に当たりましては、歳入の効果的かつ積極的な確保を図りながら、運営経費のさらなる抑制に努め、組織市の健全な財政運営に資するとともに、安全で安定した施設運営に努めつつ、リサイクルセンターの更新事業を推進し、循環型社会の形成に向けた重要な役割を發揮できますように、創意工夫に努めているところでございます。

このような方針の下、予算編成に取り組みました結果、令和7年度の歳入歳出予算の総額は、歳入・歳出それぞれ66億7,639万円で、前年度と比較いたしますと34億5,594万4,000円、107.3%の増となっております。

なお、各款項別の予算内容につきましては、事務局長から詳細な説明をさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

提案理由の説明は、以上のとおりでございます。

どうぞよろしくご審議のほどお願い申し上げます。

○議長（大野祐司君） 荻原事務局長。

○事務局長（荻原正樹君） 議案第5号、令和7年度ふじみ衛生組合予算の詳細につきまして、ふじみ衛生組合予算及び同説明書に沿ってご説明させていただきます。

初めに、1ページをお開きください。令和7年度予算の構成につきましては、第1条歳入歳出予算、第2条債務負担行為及び第3条地方債となっております。

2、3ページをお開きください。第1表、歳入歳出予算でございます。

款、項に区分した歳入歳出予算の内訳でございます。歳入歳出予算の総額は、歳入歳出それぞれ66億7,639万円で、前年度に比べ、34億5,594万4,000円の増となっております。詳細につきましては、事項別明細書によりまして、順次ご説明をいたします。

次に、4ページをお願いいたします。第2表、債務負担行為でございます。

まず、生活環境影響調査業務委託事業につきましては、（仮称）新リサイクルセンターの建設工事及び施設の稼働に伴う周辺環境への影響について調査業務を委託するもので、

令和8年度から令和11年度まで、支出額744万3,000円を限度とする債務負担行為を設定するものでございます。

次のスプレー缶・ライター処理機2号賃借料につきましては、作業環境の改善を図るため、現在の処理機に加えて、新たにスプレー缶・ライター処理機を賃貸借するもので、令和8年度から令和10年度まで、支出額3,069万円を限度とする債務負担行為を設定するものでございます。

3つ目のヒンジドフォークリフト2号賃借料につきましては、廃車したショベルローダーに変わって、ヒンジドフォークリフトを賃貸借するもので、令和8年度から令和10年度まで、支出額1,148万4,000円を限度とする債務負担行為を設定するものでございます。

続きまして、第3表、地方債でございます。

(仮称)新リサイクルセンターの建設工事を対象とした起債でございます。令和7年度分は、限度額32億9,700万円を予定し、計上させていただくものでございます。

続きまして、予算の説明をさせていただきます。

6、7ページ、歳入歳出予算事項別明細書の総括をご覧ください。

まず、左側6ページ、歳入でございます。その特徴を申し上げますと、(仮称)新リサイクルセンター建設工事に伴う事業費の増により、第3款国庫支出金及び第7款組合債が大幅な増となりました。

また、クリーンプラザふじみの施設運營業務委託料の減に伴いまして、第1款分担金及び負担金が減となりました。

なお、令和7年度につきましては、基金からの繰入れは行いません。

その他の科目につきましては、実績を勘案し、予算措置いたしました。

右側7ページが歳出でございます。その特徴を申し上げますと、(仮称)新リサイクルセンター建設工事に伴い、第3款事業費が大幅な増となりました。

それでは、詳細の説明に移らせていただきます。初めに歳入でございます。

8、9ページをご覧ください。第1款、分担金及び負担金でございます。

令和7年度の分賦金の総額は、11億6,229万9,000円でございます。そのうち三鷹市の分賦金につきましては、5億7,106万1,000円でございます。

次に、11ページをご覧ください。調布市の分賦金につきましては、5億9,123万8,000円でございます。

続きまして、14、15ページをご覧ください。第2款、使用料及び手数料でございます。

廃棄物処理手数料につきましては、前年度同様1万3,000トンの持込みごみの受入れによる4億5,500万円を見込んでおります。また、滞納繰越分として2,000円を見込んでおります。総務使用料につきましては、組合用地使用料でございます。

続きまして、16、17ページをご覧ください。第3款、国庫支出金でございます。

右側説明欄をご覧ください。1、放射能測定に伴う補助金につきましては、焼却灰等の放射能測定に要する経費に対する補助でございます。対象となる経費は焼却灰、飛灰、排ガスの試料採取及び分析でございます。

なお、10分の10の補助でございますが、41ページの放射能測定調査委託料が歳入の額を7万9,000円上回っております。これは、補助対象とならない排水につきましても、地元とのお約束で測定を実施するためでございます。

また、戻っていただきまして、2、循環型社会形成推進交付金につきましては、(仮称)新リサイクルセンター建設工事に係る交付金で、補助率は、対象事業費の3分の1でございます。

続きまして、18、19ページをご覧ください。第4款、財産収入でございます。

施設整備基金の運用利子として62万1,000円を見込んでおります。

続きまして、20、21ページをご覧ください。第5款、繰越金でございます。

前年度と同額の2,000万円の計上でございます。

続きまして、22、23ページをご覧ください。第6款、諸収入でございます。

初めに、組合預金利子でございます。14万2,000円を見込んでおります。

次に、雑入でございます。説明欄をご覧ください。

1、有価物売払収入でございます。処理量は令和5年度実績、単価は直近の売払実績の40%で見込みました。その結果、前年度に比べ、3,504万8,000円減額の7,298万9,000円の計上となりました。

2、その他雑入でございます。可燃ごみ処理施設売電収入につきましては、焼却量の増に伴い、売電量の増が見込まれることから、前年度に比べ、7,851万7,000円増額の4億8,342万5,000円を計上いたしました。

三鷹中央防災公園・元気創造プラザへの温水供給収入につきましては、前年度と同額の250万円を見込み、41ページの温水供給委託料も同額を計上いたしました。

また、災害廃棄物受託収入531万円を計上した一方で、小平・村山・大和衛生組合の広域支援がなくなることから、広域支援に伴う搬入ごみ受託収入につきましては、計上して

おりません。

以上のようなことから、雑入といたしましては、前年度に比べ、3,861万6,000円の減額となっております。

続きまして、24、25ページをご覧ください。第7款、組合債でございます。

(仮称)新リサイクルセンター建設工事に伴い、新リサイクルセンター整備事業債26億9,300万円、東京都区市町村振興基金6億400万円を計上しております。

歳入につきましては、以上でございます。

続きまして、歳出でございます。28、29ページをお開きください。

初めに、第1款、議会費でございます。

前年度とほぼ同額の677万7,000円を計上いたしました。

続きまして、30、31ページをご覧ください。第2款、総務費でございます。

前年度と比べ245万5,000円の増額となっております。

目1、一般管理費につきましては、主に組合運営に係る経費でございまして、前年度と比べ、659万2,000円の増額となっております。この主な要因は、給与、期末・勤勉手当の改定等により、職員人件費が増額となったこと、及び33ページ説明欄の上から13番目の地球温暖化対策実行計画を5年ぶりに改定するための業務委託料を計上したことによるものでございます。

続きまして、34、35ページをご覧ください。

目2、環境学習・地域交流推進費は、施設見学等の環境学習及びイベントに要する経費でございまして、前年度と比べ、425万6,000円の減額となっております。この主な要因は、前年度は啓発品購入費として、ペットボトルつぶし器3年分を予算計上いたしましたが、本年度は皆減となったことなどによるものでございます。

次に、目3、施設整備基金費でございますが、実績を勘案し、施設整備基金の利子相当額積立金62万1,000円を計上いたしました。

続きまして、36、37ページをご覧ください。第3款、事業費でございます。

総額につきましては、前年度と比べ、34億5,340万円の増額となりました。

第1項、ごみ処理場費、目1、ごみ処理場管理費につきましては、施設課職員人件費のほか、リサイクルセンター、クリーンプラザふじみ共通の管理経費でございます。前年度と比べ1,627万8,000円の増額となっております。

この主な要因でございますが、給与、期末・勤勉手当の改定等により、人件費が増額と

なったこと及び説明欄の2、ごみ処理場事務関係費の上から8番目、車両誘導警備業務委託料が工事期間中の増員に伴いまして、前年度と比べ1,674万6,000円の増額となったことなどによるものでございます。

その他の経費につきましては、多少の増減はございますが、例年と同様の予算計上となっております。

続きまして、38、39ページをご覧ください。目2、リサイクルセンター運営費でございます。前年度と比べ2,888万9,000円の減額となっております。

この主な要因でございますが、39ページ説明欄、1、維持管理運営費の上から14番目の不燃ごみ処理業務委託料が、人件費の上昇等に伴いまして、1,599万3,000円の増額となった一方で、中央棟の解体に伴いまして、設備等修繕料が2,350万円の減額となったこと、並びにプラスチック処理設備及びペットボトル処理設備の点検業務が不要となったことなどによるものでございます。

その他の経費につきましては、多少の増減はございますが、例年と同様の予算計上となっております。

続きまして、40、41ページをご覧ください。目3、クリーンプラザふじみ運営費でございます。前年度と比べ3億2,405万4,000円の減額となっております。

41ページ説明欄をご覧ください。1、維持管理運営費の上から5番目の施設運営業務委託料につきましては、20年間の長期契約に基づく本年度分の支出額2億3,388万1,000円でございます。前年度に比べ3億8,644万2,000円の減額となっております。これは、前年度は施設稼働後12年目を迎え、ボイラの蒸気加熱器の更新工事や建物壁面の修繕などを行いましたが、本年度は大きな工事がないためでございます。

一方、歳入と連動する売電収入相当額委託料につきましては、先ほど歳入で申し上げましたとおり、焼却量の増に伴い売電量の増が見込まれることから、前年度に比べ5,575万3,000円増額し、4億5,763万円を計上いたしました。

その他の経費につきましては、多少の増額、増減はございますが、例年と同様の予算計上となっております。

続きまして、42、43ページをご覧ください。

第2項、ごみ処理場建設費は、リサイクルセンター更新に係る経費でございます。前年度と比べ37億9,006万5,000円の増額となっております。

この主な要因でございますが、東棟・北棟改造工事が終了し、3億5,362万3,000円の減

額となった一方で、45ページ説明欄の一番上の（仮称）リサイクルセンター建設工事費が40億7,500万円の増となるなど、工事請負費全体で37億2,948万6,000円の増額となったことなどによるものでございます。

続きまして、46、47ページをご覧ください。第4款、公債費でございます。

前年度と比べ3万2,000円の減額となっております。

既存リサイクルセンターの設備更新のために、平成26年度に東京都区市町村振興基金から借り入れた組合債が償還を迎えるため、元金が減額となる一方で、東棟・北棟改造工事、中央棟解体工事等を含む新しいリサイクルセンター関係工事に伴いまして、令和6年度に新たに借入れを行いましたので、利子が増額となりました。

続きまして、48、49ページをご覧ください。第5款、予備費でございます。予備費につきましては、前年度と同額の2,000万円の計上でございます。

歳出につきましては、以上でございます。

続きまして、50ページをご覧ください。ここからは給与費明細書でございます。

まず、50ページが特別職でございます。ふじみ衛生組合事業方式及び事業者選定審議会が終了いたしましたので、人数が5人減っておりますが、（仮称）新リサイクルセンター建設工事の実施に伴い、欠員となっていた非常勤特別職を採用することいたしましたので、報酬が99万2,000円増額となっております。

51ページ以降は一般職でございます。派遣職員等の給与費・共済費につきましては、前年度に比べ471万5,000円の増額となっております。

また、会計年度任用職員につきましては、再任用職員の後任に会計年度任用職員を採用するとともに、期末・勤勉手当の改定を見込み、前年度に比べ452万6,000円の増額となっております。

52ページから54ページにつきましては、それぞれの給与費の増減額の明細及び状況でございますので、ご覧いただければと存じます。

続きまして、56、57ページをご覧ください。債務負担行為に関する調書でございます。

新ごみ処理施設整備運営事業からヒンジドフォークリフト2号賃借料まで、計14の事業で、令和7年度以降、315億2,234万2,000円の支出予定となっております。

最後に58ページが地方債の現在高見込みに関する調書でございます。令和7年度末の地方債残高につきましては、41億8,860万2,000円となる見込みでございます。

議案第5号、令和7年度ふじみ衛生組合予算の説明については、以上でございます。

どうぞよろしく願いいたします。

○議長（大野祐司君） これより質疑に入ります。質疑はありますか。谷口議員。

○7番（谷口敏也君） 2点お伺いします。ご説明いただきました23ページの有価物売払収入のほうで、ごみ処理の量は増えていますが、試算の方法が直近の40%単価が、かなり低いんじゃないかと思うんですけど、その辺はどうお考えなのかお伺いします。

それともう1点は、先ほどもご説明をいただきました37ページのごみ処理場の事務関係費の中の車両誘導で増員というというお話でしたけど、建設工事が始まるから多分そうじゃないかなと思ったんですけど、これはどこに出したのか、中なのかそれとも外の歩行者対応とかというふうになるのか具体的にお伺いします。

○議長（大野祐司君） 荻原事務局長。

○事務局長（荻原正樹君） 1点目の有価物売払収入について、単価が直近の40%という点でございますが、例年は60%程度で見込んでいるところでございますが、7年度につきましては中央棟の解体工事が始まってまして、仮囲いができて大型の車両が通行できなくなります。

今まででしたら10トン積める車で来ていただいた有価物を、例えば4トンの車に2台で運んでもらわなければならないということになりますと、同じ10トン運ぶのでも運賃が余計にかかります。したがって、単価がその分下がるだろうという見込みで40%にいたしました。

また、車両誘導の関係でございますが、今までは全て一方通行でございましたけれども、工事期間中は北棟の前、ちょうど三鷹中央防災公園・元気創造プラザ側から入ってくるころの通りが相互通行になります。したがって非常に危険を伴いますので、そういったところに追加で人員を配置するという予定にしております。工事用の警備員については、工事会社のほうでまた別途を用意いたします。

○議長（大野祐司君） ほかに質疑ございませんか。野村議員。

○8番（野村羊子君） 詳細な説明、ありがとうございます。

基本的なところで、事務経費等々の縮減をというふうに言っていますが、現実にはこの物価高騰の折で、様々な経費、人件費のアップはもちろん条例改正したので入っていますが、それ以外の部分で本当にそれで済むのか、妙な節約をし過ぎて効率が落ちるとかというふうなことがあってはならないので、その辺りの経費の見方、本当に今と違っていろんなものが上がっていったら中での対応というのがちゃんと取り組まれているの

か。工事費も先ほど言いましたように、国交省でしたら16%上げるみたいな話をしている中で、この見込みでいいのかどうかというのをちょっと確認したいと思います。

○議長（大野祐司君） 荻原事務局長。

○事務局長（荻原正樹君） 確かに物価高騰しておりまして、人件費に限らず委託料等々も上がっているところがございます。そういった点につきましてはしっかり見積りを取りまして、業務に支障がないような金額を予算計上しておりますので、業務については、順調に進むと考えているところがございます。

○議長（大野祐司君） 野村議員。

○8番（野村羊子君） その価格は現実には動いていってしまうということがあって、結局今回の入札不調においても、どんどん価格が変動していく、あるいは物が入ってこない、部品が入ってこないということによって、延期せざるを得ないという事態があちこちで起きているという中で、やっぱり、その辺の価格の見極めとか納入状況の見極めというのは非常に重要になると思います。

だから、その辺りをどう日常的な管理をしていくのかというところが実際には大きく問題になると思うんですが、その点どのように考え、職員にどのように対応するというふうなことにしているのか、もう1回ちょっと確認します。

○議長（大野祐司君） 荻原事務局長。

○事務局長（荻原正樹君） 職員の対応でございますけれども、同じような答弁になってしまうんですが、業者さんと情報共有をしていただいて、適切な価格を交渉して出していただいての予算計上となっているということでございますので、今後、品物が入ってこない等の状況があった場合には、その対応策について、ふじみ衛生組合としてもしっかり検討して、対応していきたいと思っております。一つの事例が例えばこちらの焼却施設で、一昨年でしたか、LEDの交換工事をしようと思って予算計上したのですが、実際にはLEDが手に入らなかったということで、1年先送りしたこともございます。

そのような形でその年度内にやらなければいけないのか、後年度に遅らせることができるのか、その辺も含めまして、検討していきたいと考えております。

○議長（大野祐司君） 野村議員。

○8番（野村羊子君） 日々工夫していただいてということになると思いますが、そのことで、職員のやる気がそがれたりとか、あるいは本当に混乱する、かえってこういう業務が滞るみたいなことにならないようにしていただきたいと思っております。

それともう1点確認したいのは、能登半島の災害廃棄物で多分受け入れる、受け入れないという話があったと思います。これに関しては、来年度中にそのような話になるのか、なった場合にこの受入れの費用的なことはどういうふうに考えていくのかというのを分かっていたら教えてください。

○議長（大野祐司君） 荻原事務局長。

○事務局長（荻原正樹君） 正式な通知はまだ東京都から来ていませんが、東京都全体として、来年度も災害廃棄物については受入れをしていくというようなお話をいただいております。各自治体ごとに一応想定で割当て量が来ておりまして、ふじみ衛生組合では、年間150トンの受入れを予定しているというふうにお聞きしましたので、その150トンに基づきまして、予算計上させていただいたというところでございます。

○議長（大野祐司君） 野村議員。

○8番（野村羊子君） 分かりました、その費用は国が持つということでよかったですよ、その災害廃棄物に関して、ちょっとそこをもう一回確認します。

○議長（大野祐司君） 荻原事務局長。

○事務局長（荻原正樹君） 一時的には災害地が立て替える形になりますけれども、国の補助金制度を活用いたしまして、最終的には、国のほうからその分を補填していただくということで、国の費用になると考えていただいてもよろしいと思います。

○議長（大野祐司君） 野村議員。

○8番（野村羊子君） あと細かいことですが、環境測定、放射能測定はいろいろやって排水もとやっていますけど、今、PFASの問題が水だけではなくて空気でも問題になっているというふうな話で、これらを、このことについても市民の方の不安と関心が高まっているので、その辺りを加えるという検討をしていただきたいんですが、いかがでしょうか。

○議長（大野祐司君） 荻原事務局長。

○事務局長（荻原正樹君） PFASの問題につきましては、ふじみ衛生組合独自の問題ではないので、今後、三鷹市、調布市とも相談をしながら、対応ができれば対応していきます。

○8番（野村羊子君） 分かりました。マイクロプラスチックなんかにしても様々なそれに絡めた化学物質は周辺に出ている排気ガスの中に入っていて、周辺に飛び散っているというようなこともあって、PFASも同様に化学物質として同じように結局1回集中し

て、それがまた拡散していくというところの起点になりかねない施設だということを自覚して対応していただきたいと思います。いいです。ありがとうございます。

○議長（大野祐司君） ほかに質疑ございますか。大城議員。

○10番（大城美幸君） 1点だけ、17ページの国庫支出金、国庫補助金です。

新リサイクルセンターの更新に当たっての補助率3分の1で、循環型社会形成推進交付金ということです。前にクリーンセンターのときも、これを活用したことがあると思うんですが、そのときは発電機を導入して、その代わり、福島原発のごみを受け入れるということが条件に付されたとした記憶しているんですが、この交付金の要件、交付要件を受けるに当たって、ふじみでこうしなければならないというものがあるのかどうか、確認します。

○議長（大野祐司君） 荻原事務局長。

○事務局長（荻原正樹君） 国の交付金制度でございますけれども、今こういった交付金を受ける際に、2つのことを国のほうから確認されています。一つは、災害廃棄物に対する対応、それをどうするのかということ。それから、令和4年にプラスチック資源循環法ができましたので、製品プラスチックに対する対応、そういったものをしっかりお示しをすれば交付金を受けられるということになります。

○議長（大野祐司君） 大城議員。

○10番（大城美幸君） そうすると災害廃棄物、能登とかそういうものはあるんですが、今後また原発事故が起こった場合、放射能を含む災害廃棄物を受け入れることもあり得るということになるのか。あと製品プラへの対応ということでは、今回それに対応するということがクリアなのかなとは思いますが、どうでしょうか。

○議長（大野祐司君） 荻原事務局長。

○事務局長（荻原正樹君） 言葉足らずで申し訳ございません。

自分の地域で災害廃棄物が発生した場合の対応について明記をするということでございまして、ほかの地域で発生した災害廃棄物の受入れまで求められているものではございません。

○10番（大城美幸君） 分かりました。

○議長（大野祐司君） ほかに質疑はございませんか。よろしいですか。

（「なし」の声あり）

○議長（大野祐司君） 以上で質疑を打ち切ります。

これより討論に入りますが、討論ありますか。大城議員。

○10番（大城美幸君） 討論します。

さっきの議案でも質疑、討論しました新リサイクルセンター更新は、私どもも必要と考えますが、その関連の予算で入札の在り方等疑義があり、新リサイクルセンター関連の予算が含まれているため、反対をします。

○議長（大野祐司君） ほかに討論はございませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（大野祐司君） それでは、以上で討論を打ち切ります。

これより採決いたします。

議案第5号、令和7年度ふじみ衛生組合予算について、原案のとおり決することに賛成の方の挙手を求めます。

（賛成者挙手）

○議長（大野祐司君） 挙手多数。よって、本案は原案のとおり可決されました。

以上で本日の日程は全て終了いたしました。

それでは、これで会議を閉じます。

これにて、令和7年第1回ふじみ衛生組合議会定例会を閉会いたします。

本日はお疲れさまでございました。ありがとうございました。

午後0時09分閉会

以上会議の顛末を書き、その相違ない
ことを証するためにここに署名する。

令和7年2月19日

ふじみ衛生組合議会議長

大野 祐司

ふじみ衛生組合議員 2 番

澤村 慧

ふじみ衛生組合議員 7 番

谷口 敏也